



光栄の森

平成27年1月 毎月1日発行 第79号
発行所 光栄プロテック 豊巻

1月にむかって

代表取締役 三田雅憲

寒さが一段と厳しくなりましたが、皆様におかれましてはお変わりないでしょうか。社員みんなも風邪などで休むことなく勤務に励んでくれておりうれしく思います。

前月号で大手と違い中小企業にとっては厳しい経営が続いている旨の話をさせて頂きました。個人企業を含む中小零細企業の廃業数が年間3万社近くにのぼっているそうです。実際、公務員や大手企業では平均80万円近いボーナスが出ていると盛んに報道されておりますが、中小企業ではボーナスの支給できる企業数は51%で、残り49%の中小ではボーナスも支給されていないのが実情です。又、支給額も平均で27万円だそうです。大学を出ても50%しか正社員になれず、よって、不安定な契約社員やアルバイトに就き、未来への展望が見えにくくなっています。最近、独身男性の40代~50代で親と同居している人の大半が、アルバイトや契約社員もしくはニートであること。平均年収も100万~150万というデータが報道されていました。

こういった中において夢を持つことは非常に大変だと思います。しかし一方、世界に目を向けてみますと、ノーベル平和賞を受賞したマラウさんの母国 パキスタンでは、子供たち特に女性は教育の機会が少なく学校は破壊され、先日はその学校で学ぶ子供に対して銃を向け殺害するという前代未聞の事件が起きました。学校に行きたくても行けない。そしてその機会を親や大人が奪う国がある。そんな厳しい中においても学び、将来の夢を語る子供の姿を見て改めて、上を見てもきりが無いが下を見てもきりが無い、現実・現状に感謝しながら自分にとっての夢や目標を持って前に進んでいく大切さを感じます。

会社として、2015年は関東へ進出するという大きな節目の年になります。社員一人一人が協力していただかないと成功しないと思います。ますます建築プロジェクトが進む関東の物件を取り込み、新たな顧客と活躍のフィールドを増やすことが、光栄プロテックの社員にとっても今後必ず重要になるからです。

環境の変化に対応できないものは淘汰されるのが世の常だそうです。4月には当社が創立30周年を向かえ、次の10年にはより一層飛躍した会社になっているように、私共は環境の変化に対応しつつ、大切にしなければならない事柄は残していける会社として頑張っていきたいと肝に銘じ、社員共々社会へ貢献していきたいと思っております。